

乳癌肝転移における Diffusion-weighted Whole body Imaging with Background Suppression (DWIBS) の有用性の検討

1. 研究の対象

2017 年 3 月 27 日～2021 年 3 月 31 日までに当センターで体幹部 MRI (腹部、全脊椎 MRI を含む) を受けた進行再発乳癌の患者さん

2. 研究目的・方法

1. 目的

MRI を用いた Diffusion-weighted Whole body Imaging with Background Suppression (DWIBS) は FDG-PET と比較して乳癌の遠隔転移をより正確に検出されたとする報告や、造影 CT と比較して転移性乳癌患者での肝転移、骨転移の検出の精度が高く、併用した場合に CT では安定していると判断された病変が DWIBS では PD と判断される不一致が認められたとの報告があり、とくに肝転移をより早期に検出できるならば臨床上有用であると考えられます。しかしながら CT と比較してどの程度の感度で DWIBS が肝転移を検出するののか、また、どのような患者さんに行うことが適切なののか、まだデータが不十分です。そのため当センターで進行再発乳癌の患者さんに行った体幹 MRI (DWIBS) のデータを用いてその有用性を検証し、また適応となる病態について検討します。

2. 方法

当センターで治療を受けている乳癌患者さんの造影 CT と体幹部 MRI の画像を比較して肝転移の検出に関して乖離のあった患者さんについて、画像データとともに診療録から各種データを抽出し後方視的に解析を行って背景因子を検索します。

3. 研究期間

当センターの倫理委員会承認後～2022 年 12 月末まで

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：カルテ番号、生年月日、血液検査データ、MRI および CT 画像、抗がん剤やホルモン剤での治療歴、合併症や既往症などの病歴等

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

様式第 1-4 (2018. 4. 1 版)

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としますので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

研究責任者：大阪国際がんセンター 腫瘍内科 藤澤文絵

住所：〒541-8567 大阪市中央区大手前3-1-69

電話：06-6045-1181

-----以上